みどりのきずな

平成31年4月発行　第37号

編集:緑区支え合いのまち推進協議会広報部会　発行:緑区支え合いのまち推進協議会事務局 緑保健福祉センター内

TEL:043(292)8185　FAX:043(293)8284

またも悲しい出来事、栗原心愛さんの虐待死を思う

緑区支え合いのまち推進協議会　委員長　岡本 博幸

またも悲しい出来事が起こってしまいました。平成３１年１月、野田市小学校４年生、栗原心愛（みあ）さんが、父親の虐待によって死亡する事件が起きてしまいました。

心愛さんは学校のいじめに関するアンケートで「お父さんにぼう力をうけています。夜中に起こされたり、起きているときにけられたり たたかれたりされています。先生、どうにかできませんか」と必死で助けを求めていました。悲痛な叫び声が聞こえてきます。愛くるしい心愛さんが父親から虐待を受け、死に至るまでの苦しさを想像しただけでも胸が締め付けられる思いです。学校・市教育委員会・行政はなぜこの問題に耳を傾け、行動をとらなかったのでしょう。友達と遊びたかったでしょう。愛情がほしかったでしょう。それがかなわず苦しい死を迎えてしまったのです。

また、昨年にも悲しい出来事がありました。船戸結愛（ゆあ）さん（５歳）が父親の虐待によって死亡してしまいました。この事件は社会に大きな衝撃を与えました。「もうパパとママにいわれなくてもしっかりとじぶんからきょうよりももっと あしたはできるようにするから もうおねがいゆるしてゆるしてください おねがいします ほんとうに もうおなじことはしません ゆるして」必死で生きようと叫ぶ結愛さんの言葉は涙無くして読むことができません。死に至るまでの苦しみを思うと、言葉では言い表せません。

お父さん達に尋ねます。貴方の心の中には人間の心がありますか。人を愛する心がありますか。慈悲の心はありますか。どうして子どもが憎いのですか。死亡させてしまう虐待をしてしまう心はどのようにして生まれたのですか。

この二つの出来事から学校・教育委員会・行政には多くの課題が残りました。一方地域社会・近隣の人間関係にも課題を与えました。核家族化中心の社会ですが、子どもは地域の宝です。みんなで守り育て上げていくことが大切です。子どもや家庭の生活についてもっと関心を持っていかなければならないと思います。社会福祉協議会は、この問題について正面から考えていかなければなりません。

「どこシル伝言板」のご案内

～認知症による徘徊症状がある方を早期発見し、保護・ご家族へのお引渡しをサポートするサービスです

「どこシル伝言板」とは

認知症による徘徊症状がある方の衣服や持ち物などに、ＱＲコードが印刷されたラベル・シールを貼り付けします。徘徊している方を発見した方が、ＱＲコードをスマートフォンで読み取ると、その情報が保護者の方へ瞬時にメール送信され、発見～保護～ご家族への引渡しまで、安全、安心、迅速に行うことができるサービスです。

対象となる方

市内在住の在宅高齢者の方で、要介護認定または要支援認定を受け、認知症による徘徊症状が見られる方。

利用者（申請者）となる方

対象となる方と同居または同様の状況にあり、対象となる方を常時介護している方。

※対象となる方の状況によっては、家族以外の方が利用者（申請者）となることも可能です。

認知症による徘徊症状でお困りの方は、ぜひお問い合わせください！

お問い合わせ先　緑保健福祉センター高齢障害支援課
高齢支援班　TEL 043-292-8138

見本

千葉市　AA1217

椎名地区

歳末に独居高齢者のお元気確認を！

椎名地区では、８０歳を過ぎても病気もせずに自力でお一人住まいをされておられる２８名の方を１２月２３日（日）に民生委員と社会福祉協議会・椎名地区部会とで訪問しました。手土産を渡しながら「困ったことはありませんか？」などと雑談をしながら、お元気ぶりを確認して元気に新年を迎えるよう勇気づけをしました。

住民の「支え合い」の力でバザー開催

２月１０日（日）、住民の心温まる提供品を頂き、「福祉・コミュニティまつり」を開催することができました。バザー会場には多くの方が集まり、「お久し振りね」などと言葉を交わしながら、買い物をして福祉活動に貢献されました。バザーの収益金は独居高齢者見守りや、いきいきサロンなどの高齢者の福祉・活性化運動に使用されます。

誉田地区

恒例の節分祭開催（ 誉田町三丁目自治会 ）

２月３日（日）、誉田三丁目自治会で恒例の節分祭が開催されました。この節分祭は、例年、自治会長より組長を通し、６０歳、７２歳、８４歳の年男・年女に声掛け開催しています。本年は対象者４９人のところ、年男３人、年女５人、執行部６人（管理人含む）で実施することになりました。

実施にあたり、まず玄関に目刺しの頭を供えた「ひいらぎ」を飾り、各人小マスに福豆を入れ準備完了！ １階・２階の主要な扉を開放して、全員が大声で「福は内、福は内」と連呼、「鬼は外」と館内のお祓いをしました。

その後は懇親会を実施し、自治会のますますの活性化と自治会員のご健勝、ご多幸を祈念し終了しました。

土気地区

第３６回土気地区小中学生マラソン大会開催

１月１２日（土）、第３６回土気地区小中学生マラソン大会が開催されました。まず、中学生の部が最初にスタートし、大会が始まりました。例年のように、多くの方々が応援される姿が会場のあちこちで見られました。残念なことに途中から冷たい雨が降り始め、中学生のレースが終了した段階で小学生の部は中止になりました。

最後はお汁粉を食べ、地区小中学生の交流の深まる場になりました。

ボランティア研修・交流会の開催

２月２０日（水）、土気公民館で、ボランティア研修会が開催されました。今年は、東京オリンピック・パラリンピックの前年ということもあり、「パラスポーツ　ボッチャの体験」という内容で実施しました。総勢９０名を超えるボランティアの方が参加しました。最初はパラリンピックの映像を見ながらの説明があり、障害のある方が目標に正確に投げる姿に感嘆の声も聞こえました。基本の投げ方から始まり、後半は４つのチームの分かれ実際の試合形式で全員が参加して体験をしました。多くの方から楽しく活動できたという感想を聞くことができました。ボッチャは、高齢者スポーツにも、障害のある方との交流にも繋がるスポーツだということも理解できた研修会になりました。

おゆみ野地区

「みずき・かつらサロン」のご紹介

「みずき・かつらサロン」が開催されている「おゆみ野中央４丁目」は、おゆみ野の最初の新興住宅街です。街開きから３６年経過♪高齢化率３２％と鎌取地区№１ですが、自治会・シニアの皆様が住み慣れた街において、健康を維持して自立して行くためのさまざまな取り組みを行っています。

「みずき・かつらサロン」は、参加者の皆様が、楽しみながら健康寿命を延ばす為のコミュニティの場となっており、毎週水曜日（10：00～12：00）に開催しています。10時からは体操（千葉市が進めるシニアリーダー体操など）を笑って汗をかきながら、楽しんで実施しています。11時からは交流を深める、お楽しみ脳トレ・サロンとなり、内容は皆さんの意見を聞いて改良しています。折り紙、季節の小物作り、各種の音楽演奏会、カラオケ、ボッチャ競技会などいろいろ工夫して、面白可笑しく笑いのうちに終わっています。

事前の申し込みは必要ございません。直接会場にお越しください。途中の入退場も自由です。運動の出来る服装・上履き・飲み物を持参して下さい。

ふくしトピックス

精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業（ 広め隊 ）

千葉市精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業の一環として、２月４日（月）緑保健福祉センターにて民生委員・児童委員等１３名の方を対象に、鈴木氏（千葉市精神保健福祉課）と伊藤氏（相談支援センターこすもす）に「精神障害者のある方に地域で暮らすために知ってほしいこと」と題してご講演をいただきました。鈴木氏から精神障害者の千葉市における精神障害者を取り巻く動向について・利用できる制度や支援について、伊藤氏より実際の支援現場から精神障害の特徴や関わり方についての説明がありました。

聴講された皆さんからは「精神障害と思われる方にどう話しかければよいか」「遺伝があるのか」「事業所の見学ができないか」など積極的な質問がありました。

次年度は各地区において講演していただき、精神障害者の理解を深め、地域で誰もが助け合いながら暮らせるような緑区を目指したいと思います。

委員からの一言　（千葉市身体障害者連合会 廣田 健次）

国は、１２月の障害者週間に合わせ、自治体を通じて「心の輪を広げる体験作文」の募集を行っています。今年度、千葉市の小学生部門最優秀賞に、区内の小学校に通う児童の作品が、見事選ばれました。おめでとうございます！

平成３０年度心の輪を広げる体験作文 小学生部門最優秀賞受賞作品
「気持ちでお話」 井原 侑珠 さん（千葉市立大木戸小学校　３年）

わたしが二年生の時の冬、お母さんがはたらいている保育所にお手伝いに行きました。子どもたちと所庭でおにごっこで遊びました。しかし、外で元気に遊べない子どももいます。その子は、お話ができず、体を自由に動かせないというしょうがいを持っています。わたしはその子が気になり、その子のいるおへやへ行ってみました。

わたしがその子をはじめて見たときは、

「ふつうの子みたい。かわいいな。」

と思いました。そして、そのおへやにあったプーさんの大きなぬいぐるみで遊びました。わたしが大きなプーさんの後ろにかくれて、プーさんの手を動かし、プーさんの声をまねして、

「ぼくはプーおなかがすいて動けないんだ。」

と言うとその子は、わらったり、きょとんとしていたりしました。その他にも、玉を転がすと、さいご音がするおもちゃで遊ぶと、その子は楽しそうにわらっていました。わたしはうれしくなり、くりかえし玉を入れて遊びました。

わたしはその子と遊んで、一番に思ったことは、しょうがい者で話せなくても、感じょうはあるし、うれしさ、悲しさだってひょうげんはできるということです。それにちゃんと心だってあります。そして同じ人間です。しょうがい者と言ってもなかまはずれでもなく、他のだれでもありません。その子はその子です。なのでその子自しんの感じょうや、心があります。お母さんから聞くと、その子はいろいろなひょうじょうをするそうです。わたしはそのいろいろなひょうじょうに今度その子とあうきかいがあれば気づいてどのような気持ちなのかを考えてみたいです。

話しができない友だちとの出会いは、わたしにとってとてもよいけいけんになりました。そして、話せなくても、気持ちでお話ができるとわかりました。これからもたくさんの人と出あって、気持ちでお話がしたいです。

同時期に募集している「障害者週間のポスター」とともに、これらの試みが、障害者と健常者の心の交流促進の一助になる事を、願ってやみません。

編集後記

街中に敷かれた点字ブロック、音の出る信号機、駅にはエスカレーターやエレベーター・多機能トイレも設置され、外出に不便を感じる人たちへ配慮する設備が充実してきました。他方、違法駐車や駐輪、歩きスマホやエスカレーターを駆け上がるなど、迷惑行為も見受けられます。高齢者や子供たち、障害者や妊産婦に優しい街は、誰にでも暮らしやすい街。バリアフリー設備と皆さんの心遣いで、ますます住みよい緑区にして行きましょう。　（H・K）